



川合次郎兵衛塚 1号墳(川合地区)



空から撮った写真(発掘調査時)

すごい point

- ・ 東海地方で最大級の方墳だよ。
- ・ 石室が3つもある珍しい古墳だよ。

川合地区センターの東側には、大きな石積みの古墳があります。川合次郎兵衛塚 1号墳は、7世紀の初め頃(今から約1400年前)に造られました。中恵土にある長塚古墳より200年以上も後に造られた古墳です。この古墳は、上から見た形が四角いので、方墳といいます。一辺の長さは約30mで、方墳の中では、東海地方でも最大級の大きさです。

◎ たくさんのふき石

川合次郎兵衛塚 1号墳の特徴は、一番上の部分以外が川原石で覆われていることです。このように積まれた石を「ふき石」といいます。全体で約2万個の石が使われています。

◎ 3つの石室

この古墳には、横穴式の石室が3つもあります。石室とは、亡くなった人を納める場所です。普通は、横穴式石室が1つですが、ある時期に2つの石室を増やしています。追加で造られた石室は親族用で、東側の小さな石室は、子ども用だと考えられています。

◎ 巨大な石

川合次郎兵衛塚 1号墳の石室には、とても大きな石が使われています。天井や壁には、川合では採れない石も使われています。ダンプカーやクレーンのない時代、人の力で運んできて積み上げられました。長塚古墳と同じように、この古墳を造った人は、多くの人に指示する力を持ち、今の可児市よりずっと広い可児地域全体を治めていたことが想像できます。

※ 本記事は、「可児市のじまんとほこり2025」から、一部編集を加えて転載したものです。

